富士見の魅力を紹介します

広がる前橋の可能性

合併まであと50日！

4月で村制施行120周年を迎える富士見村は、5月5日㈫に本市と合併します。今回、その合併を記念し、3月15日号と4月15日号の2回シリーズで富士見村の魅力を紹介。本号では福島富士見村長のインタビューや特産品などの村自慢を中心にお伝えします。

担当は市民編集委員古田島・大澤。

問い合わせは 富士見村役場総務課 ☎288―2211

市民が作る 市民編集 のページ Vol.75

村の魅力と合併について 福島村長に取材しました

■見どころいっぱいの富士見村

まずは、富士見村の代名詞ともいえる赤城山。年間を通して、つつじ祭り、夏祭り、あかぎ大沼・白樺マラソン大会、雪まつりなど多彩なイベントが開催されています。これらは、合併後も継続させていくことはもちろん、もっと多くの前橋市民の皆さんにも企画や参加をしてほしいと考えているそうです。

また、村の伝統文化として代表的な「横室歌舞伎」。農民の娯楽として愛され、宝暦2年（1752年）に始まりました。きらびやかな衣装は貴重な財産として、一部は県の重要文化財に指定。現在は保存会によって伝統が継承されているそうです。このような村の伝統文化も知ってほしいと話されました。

■合併に向けて苦労した点

村民の皆さんは、前橋市と富士見村との従来の行政サービスの違いで、今まで受けられていたサービスが合併後は受けられないのではという不安があったということでした。

しかし、村長の考えは、前橋市と富士見村とのサービスの違いについては、プラス面、マイナス面とも考慮し、全体的・客観的な視点で見てほしいとのことでした。今後は、5月の合併に向けて、さまざまな事業を通じて合併の機運を高めていきたいと話されました。

■前橋市民に期待すること

また、合併後の前橋市民に期待することは、農産物や自然など前橋市にない観光資源を生かしてほしいということです。合併によって、これらの観光資源を生かせば前橋市にもメリットになると思っているそうです。

例えば、富士見村のシンボルである赤城山は、今後は「前橋市の赤城山」という思いを持ってほしいと話されました。赤城山で行われるイベントへは積極的に参加し、県都前橋の象徴として赤城山を大いに宣伝してほしいとの強い思いを抱いていらっしゃいました。

特産品などの村自慢 役場広報担当に取材

名峰赤城

辛口で芳醇な香りが自慢です。発売以来1年半で7，000本の売り上げを達成。地産地消をテーマに富士見村産の米と赤城山系の清らかな水にこだわった清酒です。また、昨年12月末から「名峰赤城純米生原酒」を新発売。すでに、原酒ファンの心をしっかりとつかんでいます。

ほかのアルコール類では、たまねぎリキュール「大鳥居」が販売されています。

ほうれん草うどん ほうれん草せんべい

地元のホウレンソウを粉にして練り込んだ「ほうれん草うどん」は、ほのかなホウレンソウの香りと味がします。そのヘルシーさとおいしさで人気急上昇中。

また、「ほうれん草せんべい」は、中にホウレンソウの粉を混ぜ、ホワイトクリームやチョコクリームを入れておいしく仕上げてあります。

船津 伝次平

「明治の三老農」の一人。幕末、地元の名主・村役人として名望を集める傍ら、実践的な農業技術の改良にあたり、成功を収めました。日本の在来農法を基礎に改良しながら、西洋農法の手法を部分的に折衷した「船津農法」の考案者でもあります。

役場の入り口には村の先人をたたえる銅像が建っています。

富士見かるた

昭和31年に最初に出版された「富士見かるた」。村の歴史、産業や文化財について勉強してもらい、ふるさとをよく分かってもらいたいとの思いで作られました。「赤城の玄関赤鳥居」「富士山見える十三大字」など富士見村の歴史や産業、文化財などがふんだんに使われています。

編集後記

今回、富士見村の福島村長にお話を伺い感じたことは、常に、村民にとってメリットのある合併でありたいという姿勢で、村民の視点に立ったコメントも随所に聞かせていただきました。

また、その中で、前橋市民のまだ知らない、名所や食べ物、行事など〝富士見村の魅力〟を多く知ることができ、富士見村120年の重みを実感しました。

次回4月15日号では、富士見村の観光スポットやイベント情報についてお知らせします